

2019-2020年度 釧路ロータリークラブ

今日の主人公

北海道新聞社釧路支社
支社長

菅原 淳君

「小道具は双眼鏡」

道東の自然が持つ奥深さを、街の真ん中で感じられる。釧路に住む魅力です。

小道具は双眼鏡。職場と自宅に1台ずつ置いています。

4階にある職場の窓からは、ビルとビルの上に海が見えます。その先に白糠の丘陵。さらに奥には、よほど運がいい日に限ってですが、日高山なみが白く光っています。

日高山脈までは130

キロほど。輝く山々の名前を知ろうと地図をにらむのですが、いまだに判然としません。どなたかご存じないですか。

自宅（やはり4階）は、ベランダのすぐ下を釧路川が流れています。晩秋から春にかけて、水鳥たちがやってきます。双眼鏡でのぞくと、これがまたかわいらしい。

1度しか見たことがありませんが、カムリカイツブリの優雅な姿が好きです。鳥たちに交じってアザラシが悠然と泳いでいたこともありました。

オジロワシが来た時にはぶったまげました。こんな市街地に天然記念物が舞っているなんて。大きなツメに、何かの魚を引っかけています。それを横取りしようと、カラスが大胆にも戦いを挑みます。

「釧路、すげー」。思わず声が出ました。



取材感想

少し個人的な話になるかもしれませんが、2年前の新春道新交礼会の菅原支社長挨拶時の自身で撮られた写真に釘付けにされたのを今でも鮮明に覚えています。

年の暮れも迫った令和元年12月最終例会の後、お時間をいただき話を聴かせていただきました。釧路でのお住まいは当RC例会場からもほど近い某マンション、何と釧路川沿いと

のこと。末広は徒歩圏内というか庭のようなもの、うらやましい限りの場所ですが、菅原支社長はさすがに違っていました。今回のお話にもあるように、自宅に居ながらにして野鳥観察を行い、写真まで撮っているとのこと。その辺を伺ってみました。

写真を始めたのは、新聞記者としての仕事から、とのことですが自ら現像その他を行って…と聞いただけで、ただ者ではないよう。現在も35mmカメラ換算で2000mmの望遠レンズを愛用され、四季折々の野鳥たちを季節と一緒に収めておられます。早速拝見しましょう。菅原さん、ありがとうございました。

(文責・清水輝彦)





オジロワシ



ハシビロガモ



ホオジロガモ



クロガモ



日高山脈



カンムリカイツブリ



ウミアイサ

